

広島高速 5 号線 工事費増額問題 市議会の厳しい追及に市長は反発

広島

2019.02.28 18:53



広島高速 5 号線で工事費の大幅増額が見込まれる問題。議会での厳しい追及に市長は、

28日の広島市議会予算特別委員会。激論となったのは契約書の「認識違い」から工事費が大幅に増える見込みとなった高速 5 号線について。

トンネルを掘るシールドマシンの破損で工事が中断していることから、委員からは「修理費も加われば事業の費用対効果が下がる一方だ」と指摘が。

松井市長は「工事を完成することと予想される費用、予想外の費用、総合的に（事業を）決定する。常識的な話を前提に費用対効果を使いますそのうえで質問をお願いします」と反発。中原議員は「なんか私が非常識なことを言っているよう」と返すなど、激論となりました。

市は増額分が確定すれば最新の費用対効果を算出するとしています。

工事中断の高速 5 号線トンネル工事 費用対効果に疑問の声も

2/28(木) 19:30配信

tssテレビ新広島



広島高速 5 号線の二葉山トンネル工事をめぐり、今日開かれた広島市議会では業者との契約手続きの不手際などから工事費がかさみ費用対効果が下がる見通しに対し、議員から批判があがりました。

この問題は、広島高速 5 号線のトンネル工事を巡り高速公社が共同企業体と総額およそ 200 億円で工事契約を結んだものの契約手続きの不手際や、掘削を行うシールドマシンのカッターが破損するなどの影響で工事費が増額される見通しとなっているものです。

きょう開かれた広島市議会の予算特別委員会で議員からは当初の計画にある費用対効果が基準値を下回るのではないかといった質問がでました。

【中原議員】

「修理代を含めると今後広島高速 5 号線トンネル工事が貫通するまでに一体いくらの事業費になるのかというのは雪だるま式に増えざるをえない。こんな事業は 1（基準値）よりも下げるのは明らか」

【広島市の担当者】

「算出は今から行うので 1（基準値）を下回った場合ということについてこの時点で検討していくことではない」

広島市の担当者はこのように述べ、費用対効果が下回った場合の事業継承の判断については明言を避け、工事費が確定した段階で費用対効果を再検証するとしています。

広島ニュースTSS